

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「事例紹介 保護者面談より」



事例1 毎朝グズグズして、登校しぶりが見られる（小学1年生）

□主訴

着替えからはじまり、朝食もすぐ食べようとしない。いつもお母さんがギリギリに車で学校に送り、玄関先まで担任が迎えに来る日々が続いている。

○伝えたこと 「なんでもない抱っこをしてあげて」

- ①とても不安な気持ちが強いお子さんなので、家庭では話を聞いたり、料理を作ったりして楽しく触れ合う時間を多くしてスキンシップを図る。
- ②「○○しなさい！」と親が決めるのではなく、「何時に家を出たい？」「○○ちゃんは何をしたい？」などと自己決定を促す。あるいは、「7時30分と7時40分何時に行く？」「牛乳とお茶どっちがいい？」などと選択肢を示して子どもに決めてもらう。
- ③見えない時間の経過が分かるように、朝の時間帯の流れを視覚化して貼っておく。その場合も、親が一方的に決めるのではなく、子どもが調子のよいときに、一緒に決める。
- ④夏休み中のラジオ体操には、自分から行っていたので、朝の支度で達成可能な目標と一緒に考えて、評価する。シールが○枚貯まったら子どもの好きなことができるポイント制を取り入れる。
- ⑤朝の支度に限らず、普段できていることに注目して、できたことをほめる、認めることを実践する。例えば、汚れた物を洗濯カゴに入れなかったときに注意することよりも、当たり前に入れたときこそ、「ありがとう」と言葉を掛ける。



事例2 思い通りにならないと激しくかんしゃくを起こす（小学1年生）

□主訴

家族で子ども会等の行事に出掛けたとき、自分の思い通りにならないと、周りに大勢の人がいるにもかかわらず大きな声で泣いてしまう。

○伝えたこと 「お母さんの愛情はちゃんと伝わっています」

- ①感情のコントロールがまだ難しいお子さんかもしれない。かんしゃくは、単なるわがままというより、うまく言葉で表現できない苛立ちが背景にあるので、その思いをしっかり受け止める。その上で、「～できなくて辛かったね」と子どもの気持ちを代弁したり、適切な表現を教えたりする。その他に、出掛ける前に「今日は○○しない」と本人と確認する。もし約束を破ったら帰ることも確認する。
- ②もしかんしゃくを起こしたら、周囲の目は気になるが、「泣かないの」ではなく、「泣きたければ泣きなさい」と、ゆったりとした気持ちで見守る。少しでも約束を守ったり、我慢できたりしたときには、「我慢できたね」と認めたり、抱きしめたりする。
- ④家庭では数分でもいいので、子どもの望むことをする「スペシャルタイム」を設けて、スキンシップを楽しむ。
- ⑤機械は上手に動かせば、思い通りに動く。子どもは生きているので、思い通りになるはずがない。どんな子どもにも当てはまる「よい子育て」はない。思い通りにならないからこそ、おもしろいのである。急がず、手を抜かず、子どもをずっと好きでいてほしい。



とれたて直送便

「言葉は大きな力をもつ」



小学校時代、吃音の同級生がいた。当時は誰一人として、からかう友達がいなかったの、本人はあまり気にしていなかった。大人になってから、どうやって吃音を克服したか聞いたことがある。「小学4年生のとき、担任の先生が自由勉強を頑張っているねとをほめてくれたことが自信となり、いつの間に治っていた」と話していた。 たった一言が人生を変える！